

沖縄県内のSDGs進捗状況のモニタリングの概要

～「沖縄県SDGsモニタリング報告書」について～

令和 7 年 3 月

沖縄県企画部企画調整課
SDGs推進室

1 国内の状況

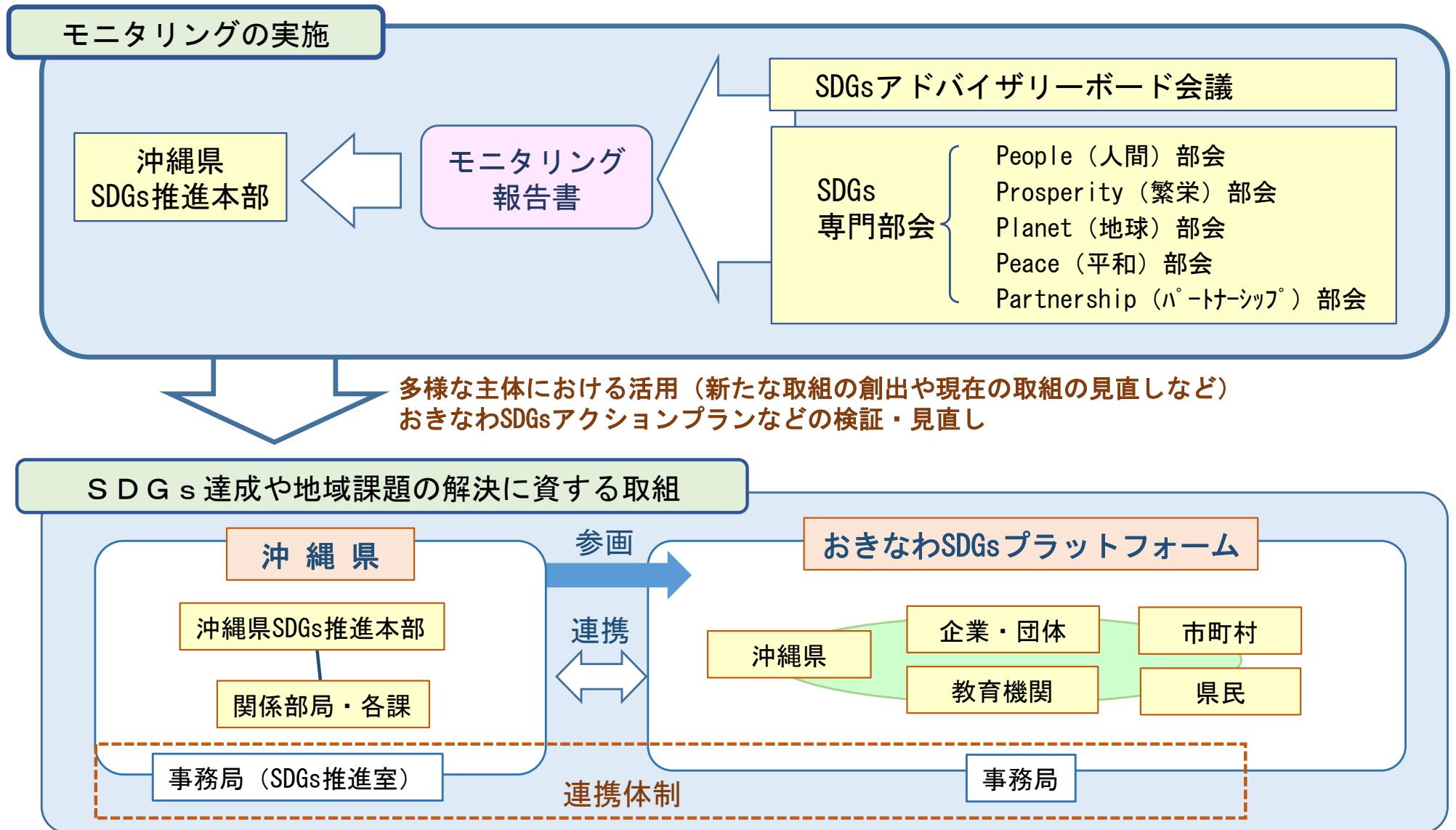
- (1) 令和5年12月の国の持続可能な開発目標（SDGs）推進本部（本部長：内閣総理大臣）において、「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」が改定されたところ。
- (2) 同実施指針において、モニタリングに関連し、以下の内容が地方自治体に対し期待する取組として記述されている。
 - ①進捗を管理するガバナンス手法を確立すること。
 - ②情報発信と成果の共有としてSDGs達成に向けた取組を的確に測定すること。
 - ③ローカル指標を設定すること。

2 沖縄県の状況

- (1) 令和3年9月の沖縄県SDGs推進本部において、「沖縄県SDGs実施指針」が決定されたところ。
- (2) 同実施指針において、モニタリングに関連し、以下の内容が位置づけられている。
 - ①取組状況等のモニタリング（進捗のフォローアップ）を実施
 - ②SDGs達成に向けた進捗状況等を、多くの人々の参画のもと透明性をもって点検し、フィードバックを図る（SDGs専門部会、SDGsアドバイザリーボードに役割を位置づけている）
- (3) 令和5年3月に開催された「沖縄県SDGs推進本部」において、令和5年度から毎年度、モニタリング報告書を同本部に報告することが確認されている。
- (4) 「SDGs専門部会」、「SDGsアドバイザリーボード会議」の意見を踏まえ、2024年3月に開催された「沖縄県SDGs推進本部」において、「令和5年度モニタリング報告書」を報告し、公表したところ。

SDGsに関するモニタリングの実施について

モニタリングについては、「SDGs専門部会（５部会）」及び「SDGsアドバイザーボード会議」において、モニタリング報告書に関する有識者の意見を収集し、庁内意見なども踏まえて整理した報告書を「沖縄県SDGs推進本部」において、了承後にモニタリング報告書を公表することとしている。



「沖縄県内のSDGs進捗状況のモニタリング報告書」の構成

章	章のタイトル	説・項のタイトル	説明
1章	報告書作成の背景	—	報告書の背景や経緯、目的などを記載
2章	モニタリングにかかる外部動向	1. 自発的ローカルレビュー（VLR） 2. 地方創生ローカル指標リスト 3. SDGs達成度評価指標	モニタリングや指標設定にかかる国内外の動向などを記載
3章	モニタリングプロセス	1. 本報告書におけるモニタリングの概要 2. モニタリング推進体制	モニタリングの方法、モニタリング体制の概要を記載
4章	沖縄県のSDGsに関するモニタリング	<u>1. 17のゴールごとのモニタリング</u> (1) 17のゴールにおける「前進」している指標の割合及び「全国水準」へ到達している指標数 (2) 17のゴールごとの各指標の進捗状況等 ①～⑰ ゴール1～17の各指標の状況 <u>2. 「おきなわSDGsアクションプラン」のモニタリング</u> (1) 全体の状況 (2) 優先課題ごとの状況 【優先課題①】～【優先課題⑫】の各指標の状況	1節では、17のゴールごとに指標を設定し、年次変化の前年比と「全国水準」の結果を整理 2節では、「おきなわSDGsアクションプラン」の優先課題、SDGs推進の目標に位置づけた指標に基づき、進捗状況と達成度を整理
5章	沖縄県内のSDGs活動状況	<u>1. 「おきなわSDGsプラットフォーム」を含めた沖縄県の取組</u> <u>2. 「おきなわSDGsプラットフォーム」会員の取組事例</u>	1節では、沖縄県やプラットフォーム事務局の活動実績を整理 2節では、プラットフォーム会員の取組事例を記載 （ポータルサイトで紹介した事例）

「17のゴールごとのモニタリング」の指標選定について

- ◆17のゴールごとのモニタリングの指標は、内閣府の「地方創生SDGsローカル指標リスト」や国連地域開発センターの「SDGs達成度評価指標」などを踏まえ、年度ごとの現状値が取得できる指標を選定している。
- ◆国連のSDGsターゲットや県内の地域課題を踏まえ、全国値との比較が可能な「共通指標」を主な指標として選定しつつ、県内の地域特性を補完する「ローカル指標」（全国値との比較が困難）を選定している。（新たな地域課題の顕在化、時代変化などを踏まえながら、指標の見直しも検討予定）

【指標の選定にあたっての視点（キーワード）】

SDGsのゴール	国連の17のゴールに関連するキーワード	沖縄の地域課題に関連するキーワード
1. 貧困をなくそう	持続可能な生計を確保するための所得と資源、社会保障制度 等	子どもの貧困対策、県民所得の向上 等
2. 飢餓をゼロに	食料の生産・共有・消費の方法、農業生産性、飢餓や栄養不良 等	持続可能な農業振興、子どもの貧困対策 等
3. すべての人に健康と福祉を	平均寿命、保険制度のより効率的な財源確保、医療へのアクセス 等	健康長寿沖縄、充実した医療提供体制 等
4. 質の高い教育をみんなに	質の高い教育機会、包摂的な教育、生涯学習 等	多様な学び、生きる力を育む学校教育 等
5. ジェンダー平等を実現しよう	政治・経済的意志決定プロセスへの参画、職場での男女平等 等	女性活躍、男女共同参画 等
6. 安全な水とトイレを世界中に	適切な給水、衛生施設・衛生状態 等	安全・安心・会的に暮らせる生活基盤 等
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	エネルギー効率の改善、再生可能エネルギーの利用拡大 等	再生可能エネルギーの導入、省エネ化 等
8. 働きがいも経済成長も	1人当たり実質GDP、労働生産性、賃金、失業率 等	生産性向上、県民所得向上、働き方改革 等
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	技術の進歩、イノベーション、インフラへの投資 等	イノベーション促進、DX推進 等
10. 人や国の不平等をなくそう	社会的弱者や疎外された人々 等	非正規雇用、高齢・障害者・外国人活躍 等
11. 住み続けられるまちづくりを	都市、都市住民、都市化がもたらす課題、効率的な都市計画、 等	人口動態、地域防災力、住宅等インフラ 等
12. つくる責任つかう責任	資源効率、持続可能な消費とライフスタイル 等	廃棄物等の発生抑制、リサイクル促進 等
13. 気候変動に具体的な対策を	気候変動、温室効果ガスの排出量、レジリエント 等	温室効果ガスの排出抑制、気候変動適応 等
14. 海の豊かさを守ろう	汚染による沿岸水域の劣化、海洋汚染 等	沿岸域の環境保全、赤土等流出防止 等
15. 陸の豊かさを守ろう	森林、生物多様性、天然資源の管理強化 等	森林保全、生物多様性 等
16. 平和と公正をすべての人に	平和で包摂的な社会、殺人等の犯罪、子どもに対する暴力 等	交通安全対策、児童虐待の防止 等
17. パートナリシップで目標を達成しよう	民間セクター等のパートナーシップ、実施手段（税収・債務等） 等	多様な連携と協働の創出 等

「17のゴールごとのモニタリング」の追加指標について

SDGsの17のゴールごとの指標について、有識者からの意見を踏まえ、年次取得可能な指標を改めて調査し、新たに4つの指標（全国値のデータを取得することが可能である「共通指標」2つと、全国値との比較を目的としない沖縄県の地域特性を補完する「ローカル指標」2つ）を追加した。

＜令和6年度追加指標＞

ゴール	属性	追加指標名	令和5年度専門部会で頂いたご意見
3	共通	合計特殊出生率	ゴール3「すべての人に健康と福祉を」の項目に本県の合計特殊出生率を加える必要性はないか。（少子化への対応⇒安心して子育てできる環境の実現や子どもが生き生きと活動できる環境の形成というアクションプランに連動）
4	共通	採用後10年までの正規雇用の教員のうち、特別支援教育に関する経験(※)が2年以上ある教員（公立のみ、全学校種）	全ての人々に包摂的かつ公平でということと考えるのであれば、特別支援学校に通っている子どもたちの話があると思います。特支に対して教員が明らかに足りていないし、特支に通う子どもは増えています。そういったところ、そういった子ども達にもちゃんと平等に学ぶ機会が与えられているということの方が合っていると思います。
12	ローカル	レジ袋辞退率	普段環境を扱っていると沖縄の環境は全国で取っているデータと違うと思う部分が多くありまして、そういう時には全国にあるデータでないと項目に選ばないというのは、分野的にはあまり適当ではないと思いました。
15	ローカル	森林整備面積	

※特別支援学校の教職経験、特別支援学級の学級担任の教職経験、特別支援学級の教科担任の教職経験、通級による指導の経験、特別支援教育コーディネーターの教職経験

「17のゴールごとのモニタリング」の評価方法について

SDGsの17のゴールごとに選定した指標について、沖縄県の現状値・前年値、全国値を収集・整理し、各指標の評価と各ゴールの評価を行った。評価にあたっては、進展度と全国値との比較結果の2つの視点から評価を行った。

＜進展度の評価＞

SDGsの17のゴールごとに選定した指標について、以下の前年比の評価基準をもとに、前年値と現状値の変化率※を「前進」・「横ばい」・「後退」の3段階評価を行い、以下の矢印の表示により記載する。また、それぞれの割合をゴールごとに算定する。

表示	「前年比」評価基準
	前進：前年値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が+5.0%以上（前進の方向を+として評価）
	横ばい：前年値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%より大きく5.0%未満
	後退：前年値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%以下（後退の方向を-として評価）

※変化率（%）の計算式＝（ α 年度値－（ α －1）年度値）／（（ α －1）年度値）
現状値と比較する前年値のデータが公表されていないなどの理由で評価が出来ない指標は「その他」とし、今後データ更新が行われた際に評価を行うこととする。

＜全国水準との比較結果＞

SDGsの17のゴールごとに選定した指標の内、全国値との比較が可能な指標（共通指標）については、「達成」・「未達成」の評価を行い、以下の矢印の表示により記載する。

表示	「全国水準」評価基準
	全国値に到達している指標
	全国値に未到達の指標

「アクションプランのモニタリング」の評価方法について

「おきなわSDGsアクションプラン」は、SDGsの17のゴール及びターゲットを踏まえ、地域課題の解決とSDGsの目標達成に向けたモニタリング指標としてローカル指標を設定している。アクションプランでは、プラン策定時の沖縄県の現状値（基準値）と目標値を掲げており、これらの進捗状況をモニタリングの中でフォローアップする。

アクションプランのローカル指標に関する評価方法

① 進捗度の評価

各指標の評価については、基準値と現状値を比較し、変化率※を「前進」・「横ばい」・「後退」の3段階評価で評価する。

表示	「進捗状況」評価基準
	前進：基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が+5.0%以上（前進の方向を+として評価）
	横ばい：基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%より大きく5.0%未満
	後退：基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%以下（後退の方向を-として評価）

※変化率（%）の計算式＝（ α 年度値－基準値）／（（基準値）
各統計方法の特性上、基準値と比較する現状値のデータが示せない指標は「その他」とし、統計データが確認できる年度に評価を行う。

② 達成度の評価

各指標の評価については、目標値に対する現状値の割合から目標値に対する達成度を算出する。

$$\text{達成度（\%）} = (\text{現状値} - \text{基準値}) / (\text{目標値} - \text{基準値}) \times 100$$

※各統計方法の特性上、現状値が示せない指標については、統計データが確認できる年度に評価を行う。